

[7番 竹下媛香さん登壇]

○7番(竹下媛香さん) 竹下媛香です。よろしく  
お願いします。

それでは、通告に従いまして質問いたします。

まず最初に、住民が参加する島田のコミュニティ  
づくりについて。

数年前、島田市の総人口が10万人を切りました。  
少子高齢化による人口減少、そして、地域コミュニ  
ティの衰退など、改善していかなければならな  
い課題があります。地域を活性化することによ  
って、これらの課題は解決できるはずです。

そこで、以下の点についてお伺いいたします。

1つ目に、島田市における少子高齢化、人口減  
少社会に対する取り組み及び今後の方針、方向性。

2つ目に、地域活性化に向け、地域の住民が協  
力し、取り組んでいる事例等を教えていただき  
たいと思っています。

次に、島田市のにぎわいづくりについて。

私は、イベントやお祭りなどに興味があり、通  
学している大学祭の実行委員なども務めており  
ます。今年3年に1度の島田大祭の年でもあり  
ます。300年以上続く島田大祭を後につなげてい  
くことは、多大な労力を要することも最近知り  
ました。

そこで、来年2月に「トビタテ！留学JAPAN」  
静岡県代表として留学するスペインで、廃校  
舎と空き家を観光資源に、祭りをつなぐ静岡の  
地域コミュニティと世界のわ・わ・わという留学  
のテーマのもとで、多くのお祭りやイベントに、  
ボランティアや企画運営係として、地域活性化  
のための祭りについて調査をしていきたいと考  
えています。そこで得たアイデアや知識を使った  
お祭りやイベントで、島田市を活性化させてい  
きたいと思っています。

3つ目に質問したいことは、私が企画したお祭  
りを周りの協力を得て実現しようとした場合、  
島田市としてどのような支援をしていただけ  
ますか。

以上、3つについて質問します。

[7番 竹下媛香さん発言席へ移動]

○議長(村田千鶴子議員) 染谷市長。

[市長 染谷絹代登壇]

○市長(染谷絹代) 竹下さんの1の(1)の御質  
問についてお答えをいたします。平成27年10月、  
本市は、島田市まち・ひと・しごと創生総合戦  
略を策定しました。これに基づきまして、市の持  
つ特性、魅力を生かしながら、人口減少、超高  
齢社会に打ち勝ち、若いパパ・ママが住みた  
くなるようなさまざまな施策を展開してあり  
ます。例えば、結婚を機に新たに市内に住宅  
を購入または賃借した世帯、引っ越しした世  
帯に対し、1世帯あたり30万円を支給する島  
田市結婚新生活支援事業を実施しております。  
妊娠や出産、子育て期にある家族に専属の  
保健師をつける島田市版ネウボラは、日ご  
ろの子育ての悩みや心配事に寄り添いなが  
ら、切れ目のない、顔が見えるサポートとし  
て好評を得ております。そして、何よりも大  
井川がもたらす豊かな自然と歴史、文化が調  
和する住環境は、安心して暮らし続けられ  
る心地よさとも言える島田市ならではの魅  
力ではないでしょうか。

今後、これまで以上に本市の特性や魅力を  
積極的に情報発信してまいります。そして、  
島田に住んだことがない方でも、暮らすなら  
島田と思っただけ、また、一旦は進学や就  
職などで島田を離れた方が戻ってきたく  
なるまちづくりを進めてまいります。

次に、1の(2)の御質問についてお答え  
をいたします。地域の活性化に向けて地域  
ぐるみで市民が協力して取り組んでいる事  
例といたしましては、耕作放棄地の活用や  
都市と田舎との交流に取り組む「相賀の  
里を良くする会」、陶芸やアートインレ  
ジデンスにより地域おこしに取り組む川  
根町笹間地区の「企業組合くれば」や、  
大井川鐵道五和駅を活用して、地域住民  
の憩いの場づくりと地域外からの交流  
人口の増加に取り組む「チームおも

しろ五和駅」、地域の子供たちに遊びの場を提供する「なかみぞさんち」などが挙げられます。

このほかにも、高齢者等の支援を行う「道悦島応援隊」、子育て親子の交流事業を行う「きしゃぼっぼ」、さまざまなイベント通じて地域を盛り上げる川根町青年団など、市民が主体となって地域の課題解決や活性化に取り組むさまざまな活動が市内で行われております。

次に、2の(1)の御質問についてお答えをいたします。小栗さんの御質問においてもお答えさせていただいたとおり、市や観光協会は、積極的に活動される方に対しては、できる限り支援あるいは連携を図ってまいりたいと考えております。支援策としては、観光振興活動支援のための補助金の交付や、お祭りや告知等の情報発信をさせていただきます。

一方で、お祭り等は一人では開催できません。いかに仲間や地域の方々の参画が得られるかが重要であります。そこで、竹下さんのように、市や地域のために積極的に活動される有望な人材の発掘、育成が必要であり、こうした人材が地域の皆様方と調和が図られるよう、橋渡し役を担うことが市の支援策になると考えます。

こうした地域主体の活動を通じて、外からこの地域に関心を持ち、地域にインパクトを与える人材の確保により、地域の活性化が図られるものと考えております。

以上、答弁申し上げます。

なお、再質問につきましては、担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしく願いをいたします。

○議長（村田千鶴子議員） 竹下さん。

○7番（竹下嬢香さん） お答えいただき、ありがとうございます。

では、次の質問に入らせていただきます。私は、海外留学のための課題研究で、山村都市交流センターささまを活用した地域活性化の取り組みにつ

いて調査を行った経験があります。笹間地区では、住民が協力して地域の活性化に取り組んでおり、海外とのつながりも持ち、すばらしいことだと思いました。こうした活動を情報発信し広めていくことが、グローバルリーダーの育成につながり、地域活性化のための取り組みの増加によって、人口減少社会に対する解決策につながるとは思います。どのようにお考えになりますか。

○議長（村田千鶴子議員） 三浦地域生活部長。

○地域生活部長兼支所長（三浦洋市） 今、竹下さんから御指摘をいただいたとおり、こうした地域でのすばらしい取り組みを広く発信することは、とても大切なことと考えています。市におきましても、さまざまな情報発信をし、地域活性化の応援をしているところでございます。

しかし、ただ活動を周知するだけでは、課題の解決には直接つながらないとも考えています。こうした課題を解決するためには、地域の中に核となる人材が必要であると考えています。

御紹介いただいた笹間地区では、「企業組合くれば」という組織が一つの核となって、自治会やNPOの皆さんがそれに協力をして、地域を挙げてさまざまな取り組みを行っています。その中には、やはり核となる人がいて、地域全体を巻き込んで作り上げてきたものであると見ています。

国内外の陶芸家を招いて2年に1回開催されていますささま国際陶芸祭などの取り組みは、この代表的な成果として評価をされまして、昨年度、過疎地域自立活性化優良事業表彰におきまして、最高の総務大臣賞を受賞しました。人口減少が進む地域では、新しい発想を取り入れたり、地域にある資源を活用するなど、創意工夫を凝らして地域の活力の維持に取り組む姿勢も必要だと思えます。

今後におきましても、地域活性化の模範となる取り組みの情報を広く発信するとともに、核となる人材の発掘や育成に力を入れてまいりたいと考

えています。

○議長（村田千鶴子議員） 竹下さん。

○7番（竹下媛香さん） お答えいただき、ありがとうございます。

地域コミュニティを維持していくためには、少子化、高齢化対策だけでなく、住民同士のつながりを築く取り組みをすることが結果的に人口減少社会の克服につながると考えています。どうお考えになりますか。

○議長（村田千鶴子議員） 三浦地域生活部長。

○地域生活部長兼支所長（三浦洋市） これから人口や経済の規模が縮小していく見込みの中では、その中で市民が暮らしやすい地域をつくり上げていくためには、やはり行政だけではなくて、市民の皆さんにも積極的にまちづくりに参加していただく必要があると考えています。

そのためには、今、御指摘をいただいたとおり、住民の皆さん同士の横のつながり、これを築き、まちづくりを自分事として捉えて参加する人を増やしていく必要があると考えています。

○議長（村田千鶴子議員） 竹下さん。

○7番（竹下媛香さん） お答えいただき、ありがとうございます。

最後に、自分の意見を述べさせていただきます。地域の住民に、笹間のような活動だけでなく、草抜きや川ざらいなどのボランティア活動に参加してもらうためには、ふだんから人とのつながりをつくるのが大切です。

地域住民同士の交流の機会をつくるという点では、祭りなどが有効と考えます。これは、地域住民だけでなく、観光客などの地域外の人々とのつながりも築くことができ、地域の活性化には有効だと思います。

本日は、このような場を設けていただき、本当にありがとうございます。以上で質問を終了します。

○議長（村田千鶴子議員） 濱田教育長。

○教育長（濱田和彦） 教育長というか、教育の立場から今のお話を、少し感想等を踏まえてお話をしたいと思います。実は、平成27年の成人式にとったアンケートの結果、島田が好きという人たちは、そのうちの82%が島田に住み続けたいと答えています。そのようなこともありまして、島田市の教育委員会では、子供たちに夢育・地育という教育を重視しています。地育というのは、地域を愛する子供に育つ、そして、地域の教育力を生かした教育をするという意味で、知識の「知」ではなくて、地方の、地域の「地」を使った地育というのを進めています。そういうことを合わせ持つて、地域の力を活用しながら子供たちを育てることによって、地域を愛する子供たちが増え、島田市の活性化、そして、島田市に住み続ける子供たちを増やすということに取り組んでいます。

それから、お話の中に、地域コミュニティの衰退というお話がありましたが、実は教育委員会サイドとしましては、最近の地域の力というのは大変ありがたいと思っています。例えば、寺子屋をやってくれる。夏休みとかに、自治会が主体となって子供たちの教育をサポートしてくれるような支援を6カ所で行っています。先ほどの答弁の中にもありました中溝町では、駄菓子屋さんがその他のこともやっています。このような活動が広がって、たしか旭町も今年度から駄菓子屋さんを開こう、子供たちが集まる場所をつくろうという動きがあると聞いています。

このように、地域が主体となって、また、地域コミュニティが主体となって教育を支えてくれるということの動きが、うねりができているということについてもお話をしておきたいと思います。

以上です。

○議長（村田千鶴子議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） ありがとうございます。私も竹下さんのお話を聞いていて強く思ったのは、島田市に根っこを持った人材を育てたいということ

です。若い人たちは、島田市の場合、18歳から25歳までの人口がどうしても減ってしまいます。しかし、30代になった人口は、男女とも移住者、そしてまた、10歳未満のお子さんということが、ここ5年間、ずっと30代の人口は増え続けているのです。ですから、子育てする世代には選ばれるまち、そろそろ結婚しよう、そろそろ家を持ちたいと思う人たちには選ばれるまちに島田市は育ってきていると思います。

しかし、そのときに島田を選んでいただくためには、やはり島田に根っこを持っている。何かあったときに、人生のさまざまな転換期に島田に帰ろうか、あるいは島田で仕事を見つけてみようと、思う人がたくさん増えていくことが大事かと思っております。

それから、もう一つ事例を紹介させてください。岡田自治会というところでは、結構若い人たちが多く引っ越してくる地域なのですが、その年に引っ越してきた人たちを集めて食事会をして、地域の人たちとつながるきっかけづくり、こういったことを取り組んでいる自治会もございます。

以上です。